

七月度 御教え

「鳥をおとりにしてかすみ網で雀を捕っていました。かわいいそうなのをみると思いました。」と申しあげたら、金光様は「かわいいと思う心が、そのまま神である。それが神である。」と仰せられた。

……「天地は語る」第三十条……

解説

この御教えは、近藤先生が、大阪よりご霊地に参拝される途中、兵庫県の明石の辺りで、霞網に雀が何十羽とかかって苦しみ鳴いている様子を見て「人間はなんとも可哀そうなのをををするものだ」と思われました。そして、教祖広前に参拝して、そのことを申し上げた時に、教祖様が発せられたお言葉であります。

この「かわいい」の意味は「かわいそうな」との憐憫の情であり、私達人間が、神様より与えられた大切な「神心」であることを改めて知らされます。それは飢餓に苦しむアフガニスタンの人々を救うため生涯をかけて灌漑事業に邁進した、医師の中村哲先生の、その行動に至った切っ掛けが、当時、飢餓から逃れ隣国に辿り着くと同時に医療の甲斐もなく次々と亡くなってゆく母子の姿に「かわいいそう」との思いが禁じられなかったことにあります。正に「かわいそう」との思いは「神心」であり、「人を祈り助け導く」原動力であります。